

2019年度 第3回 運営推進会議 議事録

- 1 日 時 令和1年9月30日(月) 15:00~15:45
- 2 場 所 地域密着型小規模特別養護老人ホームはぎの郷 地域交流スペース
- 3 出席者(敬称略)

利用者家族：山〇〇彦 田〇サ〇子 〇下〇美〇

地域包括支援センター：〇津〇子

市職員：〇村(高齢者・地域福祉課) 〇岡(介護保険課)

事業所：大山守(施設長) 宮武昭彦(統括マネジャー)

佐古田真夕(介護職員) 川上里依(介護支援専門員)

十倉恵美子(生活相談員)

欠席者：〇田(自治会長) 松〇〇一(地域代表) 〇谷〇司(知見者)

4 会次第内容

(1) 開会の挨拶及び出席確認(宮武統括マネジャー)

「はぎの郷」第3回運営推進会議の挨拶の後、出席者より自己紹介いただき会を次第に基づき進める。

(2) 施設長挨拶

皆様ご多用のところお集まりいただきありがとうございます。

皆様の忌憚のないご意見ご要望をお聞かせください。

(3) 「はぎの郷」の現状報告(統括マネジャー)

現状報告(令和1年9月29日現在)を用いながら入居者の状況及び事業所が取り組んでいるサービス内容を報告する。

また、事業所で行っている会議・研修・委員会(予定を含む)・季節行事・ボランティアの受け入れ・リスクマネジメントについて報告する。(添付資料参照)
前回会議での未回答2つについてご説明いたします。

①ご家族より、診断書はどこまで書いてもらえるのかというご質問がありました。この方は、精神障がい者保健福祉手帳の更新をされるための診断書が必要であったのですが、診断書は精神科医によって書かれなければならない、施設の嘱託医は内科なので更新のための診断書は書くことができないことはお伝えしたのですが、ご理解が難しく行き違いがありました。ご説明を重ね、元々かかっておられた精神科医に診断書を書いていただき、更新申請は現在スムーズに進んでおります。

②爪剥がれの件ですが、バスタオルを半分に切り、筒状に縫った大きめの靴下を

スタッフが作って移動時には必ずそれをはいていただくようにしています。また、足の爪に関しては、爪白癬の方が多数おられ分厚くなっているため、爪のひっかかりを防ぐためにも看護職員が定期的に爪のケアを実施しています。

なお、今回の事故にありますバルーンカテーテルの自己抜去については加古川市に報告させていただきました。

(4) 質疑応答・意見交換

①足の爪剥がれに関して、バスタオルで靴下を作ったと言われましたが、いつ作ったのですか？9月にも起きていますが。（地域包括支援センター職員）

⇒直ぐに対応しており、同一の方が繰り返し起きていたわけではありません。

今後は、対策としてバスタオルで靴下を作る等爪先を保護する工夫と定期的な爪のケアを行って再発防止に努めます。

車いすで移動している方が、皆さん分厚い靴下をはいている訳ではなく、爪が剥がれた方がはいているということですか？（地域包括支援センター職員）

⇒基本的には、靴下も靴も履ける方がほとんどなのですが、事故報告されている方は、足のむくみが酷く靴下や靴が履けない方や、爪白癬等があり乾燥が必要なため靴や靴下を履かずにおられた方です。

バスタオルの靴下を作ったのはいつですか？9月も爪剥がれが2～3件起きているようですが。（地域包括支援センター職員）

⇒前回の運営推進会議の後、直ぐに事故の起きたフロアで改善策を話し合い、厚みのあるバスタオルで両足の靴下が作られました。改善策については、他のフロアも共有しておりますが、次の事故が起きてしまいました。爪白癬の方の爪が分厚くなり浮きやすくなっていることも要因の一つとなったものと思われます。爪が何かに当たったことによるものではないと思われる方もおられます。

②薬が床に落ちていたとありますが、服薬などの管理はどのようにされてますか？（市職員）

⇒服薬については、まずスタッフ2名で名前のダブルチェックを行い、本人様の前で名前を読み確認し、飲み込みまで見届けることを基本としておりますが、飲み込まれたと思ってその場を離れると吐き出されるなどされ薬が落ちていたということがありましたので、服用後、口の中を確認するなどして対応しています。

③射的・輪投げ・金魚すくいなどは誰が作りましたか？

（地域包括支援センター職員）

⇒今回は職員が協力して作りましたが、次回のイベントでは、利用者様にもご協力いただきたいと思います。

今回の夏祭りは、経験あるスタッフが入念に企画・準備し大いに盛り上がりました。

前回の運営推進会議で秋祭りのお話しをさせていただきましたが、施設としての経験を積む時間をいただきたいと思います。秋祭りに替えまして11月に、施設全体で行う運動会を企画しています。

何名くらい来られましたか？ (市職員)

⇒利用者様ご家族が10数名、スタッフの家族が10数名、法人本部も加わり、30～40名となりました。

他フロアの利用者様も何名かお祭り見物に来られました。

④ご家族の皆様、ご意見・ご要望などお聞かせください。(統括マネジャー)

→今の所機嫌よく過ごさせていたいただいているので、特別にありません。

(利用者家族)

→特にありません。

(利用者家族)

→何もないですが、感謝しています。

(利用者家族)

⑤新規入居の方は、どういった所からお話しがあったのですか？ (市職員)

⇒今回の新入居の方については、担当のケアマネジャーが施設に足を運び、ご紹介いただきました。問い合わせ時は要介護3ではありませんでした。区分変更申請すると要介護3が出そうですとのことでした。その後、区分変更され入居となりました。また、病院の地域連携室のソーシャルワーカー、相談員、ケアマネジャーからお話しをいただいております。

ご家族が直接来られることはありますか？ (地域包括支援センター職員)

⇒担当のケアマネジャーの紹介により来所されることがあります。

⑥現場の目線で感想をお願いします。(統括マネジャー)

⇒なんとかみんなで一生懸命お手伝いさせていただいております。

至らない所もあると思いますが、皆様よろしく願いいたします。

(介護職員)

⑦先週の身体拘束等廃止委員会での検討事例をお話しさせていただきます。

ある利用者様が、いすから立ち上がられるのですが、足元が不安定なため、転倒を繰り返されているということで、スタッフから2つの意見が出ました。

1つは、けがをしてほしくない気持ちから、「鈴」などをつけていただき、立ち上がったことがわかるようにすればけがが防げるんじゃないか。

もう1つは、家にいるのと同じように、自由に動いてほしい。

2つの意見は、真に利用者様を思っの意見で議論は1時間に及びましたが、結論は出ませんでした。

「はぎの郷」の理念は「あなたが あなたらしく・・・」であるので、最期まで自分の考えや判断で自由に動くということは尊重しなくてはいけないのではないかと考えます。しかし、それによって、ヒヤリハット・事故は今後も増えることが予想されます。ヒヤリハット・事故の増加を防ぐために、私たちはスキルアップを図らなければなりません。そのために、どんな研修を行えば良いか考えてやっていこうと話しました。

しかし、2つの意見については悩むところです。

いかがでしょうか。

(統括マネジャー)

→難しいところになってくると思います。お互いの意見をお互いに考えながら活発な議論を続けていただけたらと思います。

(市職員)

→とても難しいところですね。どちらを選ぶかというところで、それがその施設の顔になるので、どちらを選んでも正解だと思いますが、その施設の指針として、しっかりと考えていただけたらと思います。

(地域包括支援センター職員)

ご家族はどのようにお考えでしょうか？

(統括マネジャー)

→両方聞いてましたけど、鈴というのはどうかと思います。私は、今は自由にしてほしいです。

(利用者家族)

→家にいても、病院にいても、どこにいてもけがをすることはあるので、本人がしたいようにしているのが一番だと思います。それでけがをしたからといって誰かを責めたりすることは無いと思います。

(利用者家族)

→自由でしょうねえ。

(利用者家族)

⇒スタッフの皆さんにも、ご家族の声を伝えてもらえればより一層気持ちと力を合わせた介護が実践されることと思います。

(統括マネジャー)

⑧今後の取り組みについて

1階に本棚を置き、図書コーナーを作り、利用者様の趣味や興味のある本を揃え楽しんでいただけるよう提案しております。年内のチャレンジを目指しております。リスクも検証しながら取り組んで参ります。

(5) 最後に

貴重なご意見等賜り有難うございました。

いただいたご意見等を活かし、地域に愛され地域とともに入居者の望むサービスの提供に取り組んで参ります。今後ともよろしく願いいたします。

以上

次回は11月25日開催予定